



## 日立ハイテクソリューションズ、「Oracle Enterprise Single Sign-On Suite Plus」で構築したシングルサインオン環境により多種多様なシステムのログインIDおよびパスワードの一元管理を短期間・低コストで実現

“既存システムの変更が不要で、簡単かつ安価に導入できるOracle Enterprise Single Sign-On Suite Plusは、シングルサインオン環境としてパーフェクトなものだと思います”

株式会社日立ハイテクソリューションズ 取締役 吉田 好明氏

株式会社日立ハイテクソリューションズは、株式会社日立ハイテクソリューションズ（日立ハイテク）グループ傘下のシステム・インテグレーション（SIer）だ。日立ハイテクソリューションズの前身である日立産業株式会社のコンピュータ関連部門が分離独立して設立された同社は、日立ハイテクグループ全体の経営や業務を支えるITシステムの開発と運用で培ったノウハウを活かし、さまざまな業種・業態の企業に幅広いソリューションを提供している。

たとえば、システム・コンサルティングやシステム・インテグレーション（SI）事業では、設計、製造分野における豊富な経験が強みである。ビジネスポータル・ソリューションとして経費精算などのパッケージ・アプリケーションも提供し、ASPとしても多数の導入実績がある。さらに、医薬品開発やバイオ・ナノテクノロジー分野の業務や研究開発を支援するラボラトリー・オートメーション（LA）システムの提供、テレビ局の映像機器販売や映像制作サポートなどもこなっている。

### 厳格なパスワード管理がもたらす新たなリスク

本社のある川崎と茨城事業所を中核とする同社の全国各地の拠点では、協力会社の技術者などを含め500名前後のスタッフが働く。彼らの日々の業務をスムーズに進めるために、十数種類のITシステムが稼働している。

株式会社日立ハイテクソリューションズ 取締役の吉田 好明氏は、



株式会社日立ハイテクソリューションズ  
取締役  
吉田 好明氏

は、事業の発展とともにITシステムが増えるにつれ、それらにアクセスするためのIDとパスワードも増えていったと説明する。

「たとえば、10以上のシステムを利用している場合、それぞれのIDとパスワードを自分で管理しなければなりません」

さらに、セキュリティ管理の強化にともない、パスワードには有効期限や文字数制限、利用する文字種の指定など、厳しいルールが適用されている。「たくさんのパスワードを頻繁に変更する必要があるため、覚えきれず手帳にメモする人もいました」（吉田氏）。セキュリティ強化のための施策がユーザーの利便性を損ない、パスワード漏えいという新たなリスクを招いていたのだ。

このリスクを回避するため、同社ではいち早くWebシングルサインオンの仕組みを導入し、ユーザーの利便性向上に努めてきた。とはいえ、社内のすべてのシステムがWebに対応しているわけではなく、クライアント・サーバー型のシステムも多い。また、システムごとにIDやパスワードの設定ルールが異なるため、既存のWebシングルサインオンの仕組みでは、同一のIDとパスワードを使えなかった。

### 全社的なID管理を見据えたシングルサインオン環境構築に着手

株式会社日立ハイテクソリューションズ 情報システム部 部長の上野 敏氏は、多くのシステムを運用する企業でIDとパスワードを一元管理するのは容易ではないと話す。

「通常、多数のシステムのIDとパスワードを1つに集約するには、そのための仕組みを新たに構築したうえで、各システムにも手を入れる必要があります、莫大な手間と費用が発生します」



株式会社日立ハイテクソリューションズ  
情報システム部  
部長  
上野 敏氏

とくにID管理では、ITシステムへのアクセス手段だけでなく、社内のすべての人員管理も考慮しなければならない。人事管理システムは、外部の協力会社などは対象外のため、企業全体でID管理を実現するには時間も手間もかかるのが一般的だ。

さらに、「ID管理は、内部統制や情報セキュリティ面からきわめて重要ですが、ユーザーにとって嬉しいことではありません」と、吉田氏は指摘する。そこで、まずはシングルサインオン環境を構築してユーザーの利便性を確保し、ユーザーにIDとパスワード管理の重要性を認識させたうえで、全社レベルのID管理へと進むアプローチが必要だったと、吉田氏は振り返る。

### 安全性と利便性の両立を実現するOracle ESSO

パスワード管理のルールを徹底し、セキュリティ確保とユーザーの利便性を両立させるべく、同社が導入したのが「Oracle Enterprise Single Sign-On Suite Plus」（以下、Oracle ESSO）である。シングルサインオン環境の構築にあたり、同社が重視したのは使いやすさと導入のしやすさであり、Oracle ESSO

## 株式会社日立ハイテクソリューションズ

設立:1983年10月

資本金:1億円

従業員数:387名(2010年4月1日現在)

おもな事業内容:システム・インテグレーション(コンサルティングから設計、構築、運用、保守)、システム開発(製造、流通、金融、公共などのビジネス・アプリケーション)、ビジネスポータルソリューション(旅費精算パッケージ・ソフトウェアなど)、LAシステム(製薬、半導体関連分野など)、情報メディア(映像制作用機器、TV会議システム)などの事業を展開

## 製品とサービス:

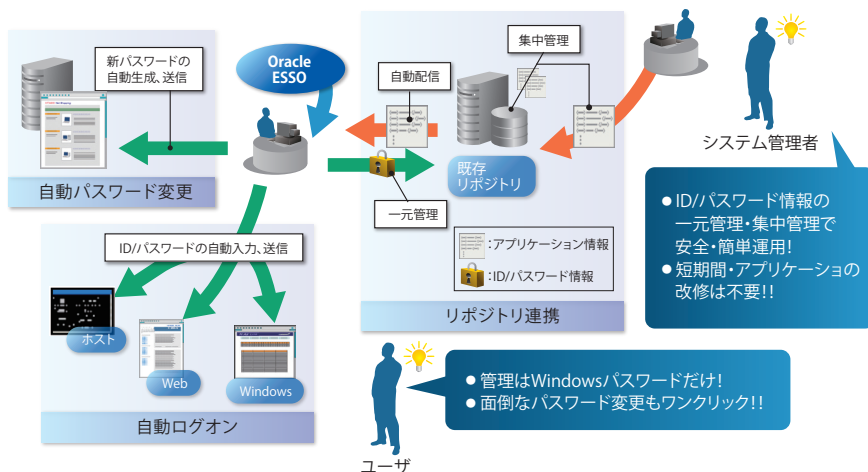
- ・Oracle Enterprise Single Sign-On Suite Plus
- ・Oracle Technology Consulting Service

対象システム:各種社内システム用シングルサインオン環境

## 導入効果:

- ・既存システムを変更することなく、多数のシステムへのシングルサインオン環境を低コストで実現
- ・担当スタッフの技術習得も含め、わずか2カ月で環境を構築
- ・複数のパスワードを憶えたり変更する必要がなくなり、ユーザーの利便性と業務効率が向上

## デスクトップ型のシングルサインオン製品、Oracle ESSOで解決!!



なら将来的なID管理への拡張の際に、その仕組みとシームレスに連携できる点も評価したという。

「他のソリューションでは、既存システムになんらかの変更が必要でした。Oracle ESSOは、既存システムの変更がまったく不要で、短時間で導入できました」(上野氏)

Oracle ESSOの導入プロジェクトがスタートしたのは2009年4月中旬で、シングルサインオン環境の利用開始は6月中旬である。「通常であれば、これだけの仕組みを導入するのに半年はかかる」という吉田氏は、「わずか2カ月で導入できたのには本当に驚きました」と話す。また、導入にあたっては日立ハイテックグループ全体で利用しているActive Directoryサーバーを使うための手続き上の調整が必要だったものの、技術面での苦労はとくになかったという。

導入プロジェクトにおいて、オラクルのコンサルタントが果たした役割も大きい。シングルサインオンの対象としては、同社が独自開発、運用するシステムに加え、SAPやLotus Notesなどのパッケージ製品、日立グループ全体で利用しているLDAPも含まれる。Oracle ESSOは、各システムのログイン画面情報などをもとに自動的にアプリケーションを判別し、IDとパスワードを渡す。どのポイントでアプリケーションを判別すべきかといったノウハウは、オラクルのコンサルタントが提供している。

「オラクルのコンサルタントには、既存システムの分析からログイン画面の判断の仕方、セキュリティポリシーの決め方など、さまざまな面で支援してもらいました」と上野氏。さらに、コンサルタントとの共同作業によって、プロジェクトに参加した同社の技術者が短期

間でOracle ESSOの技術を習得できた点も評価している。

## 自社の導入経験を活かしたビジネス展開も推進

Oracle ESSOで構築した環境により、情報システム部門の技術者がIDやパスワードの管理作業に時間をとられることはなくなった。エンドユーザーからも、「ログイン時にIDとパスワードをいちいち確認する必要がなくなり、システムをすぐに利用できるようになった」と好評だ。吉田氏は、これらの時間を合計すれば、ユーザー1人1日あたり20分の業務効率化が図られているという。

SIerとしてオラクル製品を顧客に提供する日立ハイテクソリューションズにとって、「安価なOracle ESSOは顧客に提案しやすい」と吉田氏は指摘する。すでに3,000ユーザーを超える大規模な案件も決まり、今回の導入経験をもとにシングルサインオン・ソリューションの提供をさらに推進したいと、大きな期待を寄せている。より迅速かつ低コストで展開するために、導入手法の標準化なども積極的に進めている。それにより「2週間で導入できる」可能性もあると、吉田氏は自信をみせる。上野氏も、「Oracle ESSOはセキュリティの強化とユーザーの利便性を高められることがポイントです。今後は、社内システムだけでなく外部のWebサービスも取り込み、さらに便利で安全な環境をユーザーに提供したい」と抱負を語った。

(本事例の内容は2010年5月のものです)